



火の安心を、つくろう。
Wishing for Your Safety

文書番号 TS00073



ヤマトプロテック株式会社

本社 東京都港区白金台5-17-2

<https://www.yamatoprotec.co.jp>



お問い合わせは、
二次元バーコードを
読み取って
アクセスしてください。

取扱説明書

移動式泡消火設備

YPP-160US
(ラバーバッグ式)

この度は、移動式泡消火設備 YPP-160US(ラバーバッグ式)をご採用いただき、誠にありがとうございます。本製品を安全かつ適正にご利用いただくため、据付け前に必ずお読みください。

安全と確実な防災活動のためのご注意

安全のために、必ずお守りください。

ここに示した注意事項は、守らないと人身事故や家財・施設の損害に結びつくものをまとめて記載しています。安全と確実な防災活動に関する重要な内容ですので、必ず守ってください。
防災活動に関わるすべての人がお読みになった後は、実際に管理を行われる方が、いつでも見られる場所に必ず保管してください。

警告

この表示を無視して誤った取り扱いを行った場合、誤作動や作動支障により人が死亡または重症を負う可能性が想定される内容を示しています。

注意

この表示を無視して誤った取り扱いを行った場合、誤作動により人が負傷を負う可能性及び物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

(1) すべての防災設備に関わる点検業務

防災設備の機能を維持し、万の際には十分に機能を発揮するために、整備及び点検を実施しなければなりません。それらの業務は、消防設備士または消防設備点検資格者といった有資格者に限られ、定期的な点検が義務付けられています。それら点検の方法は、二つに分けられています。

●機器点検(点検期間=6カ月ごと)

- ・消防用設備等に附置される非常電源(自家発電設備に限る)や動力消防ポンプ等の設備が、正常に作動することを確認します。
- ・消防用設備機器の配置の適正、また損傷などを、主にその外観から判断し、点検基準によって確認します。
- ・消防用設備機器の正常性を、定められた基準に従い、簡単な操作によるチェックや、外観からの判別によって確認します。

●総合点検(点検期間=年に1回)

- ・消防用設備の種類に応じて定められた基準によって、消防用設備機器の全部あるいは一部を動作させて、総合的な機能を確認します。

防災設備の品質を保ち、火災時に確実に作動させるために、必ず定期点検義務はお守りください。

(2) すべての防災設備に関わる注意事項

警告

- ・取扱説明書を十分理解すると共に正しい取扱を厳守し、緊急時の使用に備えてください。緊急時に消火活動、停止活動及び避難活動等の対応が容易になります。
- ・定期点検制度に基づき、有資格者(消防設備士及び消防設備点検資格者)による定期点検が必要です。有資格者による定期点検を行わなかった場合は、正常な機能維持ができず緊急時の消火作業に支障をきたす可能性があります。
- ・防災設備を使用した場合は専門の業者に依頼のうえ点検、整備を受けてください。点検・整備を受けない場合、緊急時に正常な消火活動ができません。

●必ずこの取扱説明書を熟読し、理解してからご使用くださるようお願いいたします。

1・仕様

型 式	YPP-160US
混 合 方 式	プレッシャー・プロポーションー隔膜方式
泡 消 火 薬 剤 [※]	水成膜泡消火薬剤、 たんぱく泡消火薬剤及び合成界面泡消火薬剤 3%型
薬 剤 量	160L
泡 ノ ズ ル	YFN-350R / 吐出圧力 0.35~0.70MPa / 吐出流量 350L/min(at 0.34 MPa)
消 防 ホ ー ス	町野式 65A×20m 2本
圧 力 損 失	0.05 MPa(at 350 L/min)
最 高 使 用 圧 力	0.96 MPa

※ただし危険物施設での取扱いは別途確認が必要です。

2・使用方法

- ① すべての弁が閉じられていることを確認する。
- ② ノズルを取り出し、ホースを延長する。(ノズルは保持しておく)
- ③ 消火ポンプを起動する。
- ④ 元弁、給水弁、原液弁の順に全開する。
- ⑤ ノズル先を火災の方向に向けて放射する。

注) 泡ノズルの放射圧力は、0.35~0.70MPa になるようにしてください。

3・泡消火薬剤の充てん方法

すべての弁が閉じられていることを確認する。

- ①エア－抜き弁2ヶ所(タンク本体上部、原液側、給水側各1ヶ所)を開く。

⚠ 注意	●エア－抜き弁が閉じた状態で泡消火薬剤を充てんすると、エア－が抜けず、ラバーバッグが破損する恐れがあります。
-------------	--

- ②充てん排液弁(タンク本体下部)より、消火薬剤160 Lをゆっくりとまたは手動ポンプで充てんする。

※1: 所定量の充てん途中でエア－抜き弁(原液側)より消火薬剤が噴出した時は、作業を中断し充てん排液弁を閉じ、ポンプ加圧によって給水弁操作を行い、エア－抜き弁(給水側)から水が出るまでゆっくり給水する。ポンプを停止し、給水弁を閉にして充てん作業を再開する。(外側から水でラバーバッグを浮かせて、内容積の拡張をはかるため。)

※2: エア－抜き弁(給水側)から水が出ている状態でも、そのまま泡消火薬剤の充てんを続けて問題はありませぬ。

エア－抜き弁(原液側)から発泡した泡消火薬剤がでてきたら充てんスピードをゆるめてください。

⚠ 注意	●充てんの際は電動ポンプでの急速な充てんはおやめください。ラバーバッグの破損及び規定量の充てんが得られずに障害が発生する恐れがあります。
-------------	--

- ③規定量の泡消火薬剤の充てんが終了したら、充てん排液弁を閉じる。
- ④ポンプ加圧によって給水弁操作を行い、エア－抜き弁(給水側)から水が出るまでゆっくり給水し、原液槽内を水で充水する。(原液槽内のエア－を完全に抜く為)
- ⑤原液側と給水側のエア－抜き弁より泡消火薬剤または水が出た時点で、それぞれのエア－抜き弁及び給水弁を閉じてください。(すべての弁が閉。)

⚠ 注意	●泡消火薬剤が原液槽にかかると、塗装が変色あるいは剥離する場合があります。かからないように注意してください。万一泡消火薬剤がかかった場合はすぐに水洗いしてください。 ●原液側と給水側のエア－抜き作業後、各エア－抜き弁及び給水弁を閉じた場合に、タンク内部がポンプ閉塞圧力状態まで昇圧している可能性があります。その状態のまま放置すると、温度上昇等による昇圧により、原液タンク内部が異常圧力となり、フランジ部、及び配管・継手部のシール性を保つことができなくなる恐れがあります。また、ラバーバッグが破損する恐れがありますので、エア－抜き弁(給水側)から排圧を行なってください。
-------------	---

- ⑥ポンプを停止する。この状態でセット完了です。

4・監視時の注意点

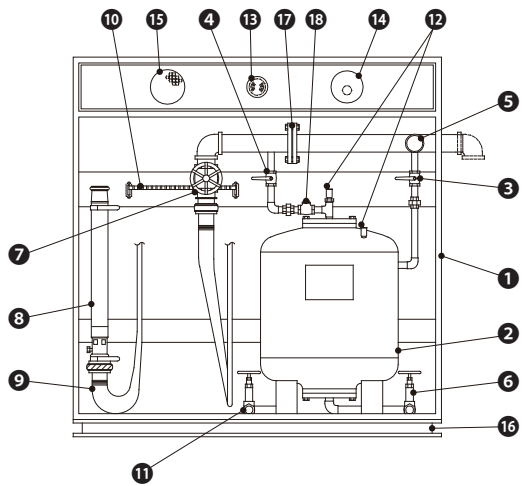
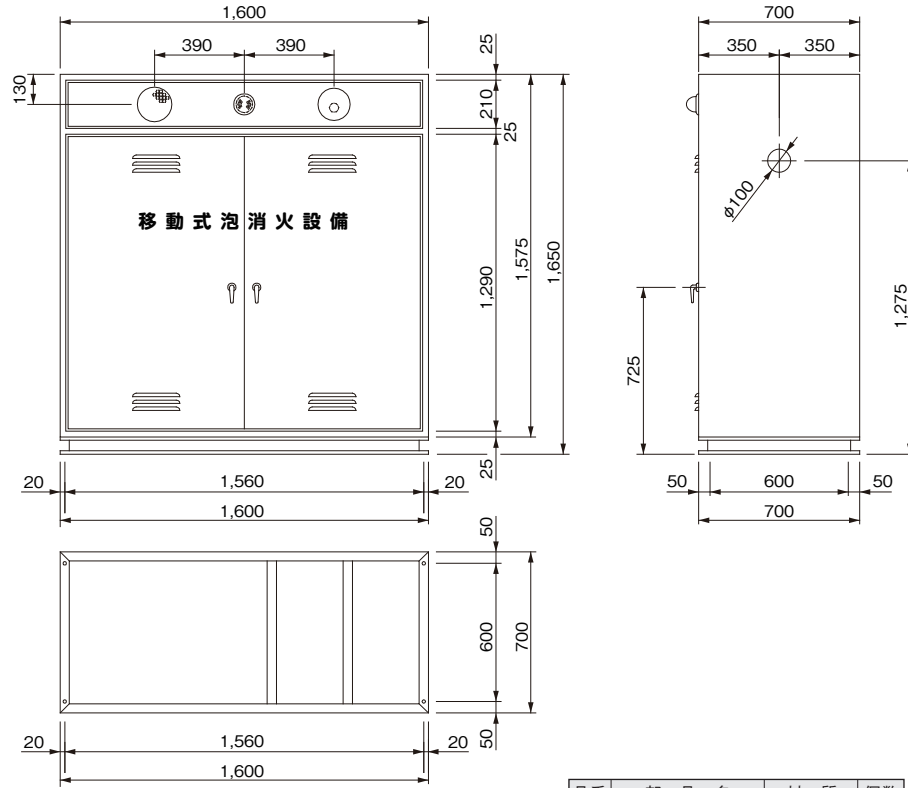
⚠ 注意	●監視時、タンク内部に圧力が保持された状態の場合、温度上昇等による昇圧により、原液タンク内部が異常圧力となり、フランジ部、及び配管・継手部のシール性を保つことができなくなる恐れがあります。また、ラバーバッグが破損する恐れがありますので、タンク内部の圧力が最高使用圧力以上とならないように十分お気を付けください。
-------------	---

5・使用(泡放射)後の手順

- ①原液弁、給水弁、元弁の順に全閉する。
- ②消火ポンプを止める。
- ③エア－抜き弁2ヶ所及び排水弁を開けて残水を排出し、「3・泡消火薬剤の充てん方法」の手順に従って行ってください。

⚠ 注意	●使用後もタンク内に圧力が残っている場合があります。バルブを開ける場合は十分お気を付けください。
-------------	--

6・構造図



品番	部品名	材質	個数
①	格納箱	SECC	1
②	原液タンク	SS400	1
③	給水弁	C3771	1
④	原液弁	C3771	1
⑤	圧力計	—	1
⑥	排液充てん弁	CAC406	1
⑦	元弁	CAC406	1
⑧	泡ノズル	AC7A	1
⑨	ホース	—	2
⑩	ホースラック	ZDC	1
⑪	排水弁	CAC406	1
⑫	エア抜き弁	CAC406	2
⑬	表示灯	—	1
⑭	発信機	—	1
⑮	ベル	—	1
⑯	ベース台	SS400	1
⑰	オリフィス(フランジ内)	C3604B	1
⑱	逆止弁	C3771B	1